



K u m a m o t o

u r b a n

## ② 都市圏交通の現状と将来の見通し



t r a n s p o r t

m a s t e r p l a n





# 人口減少・超高齢社会の進展が予測されています。

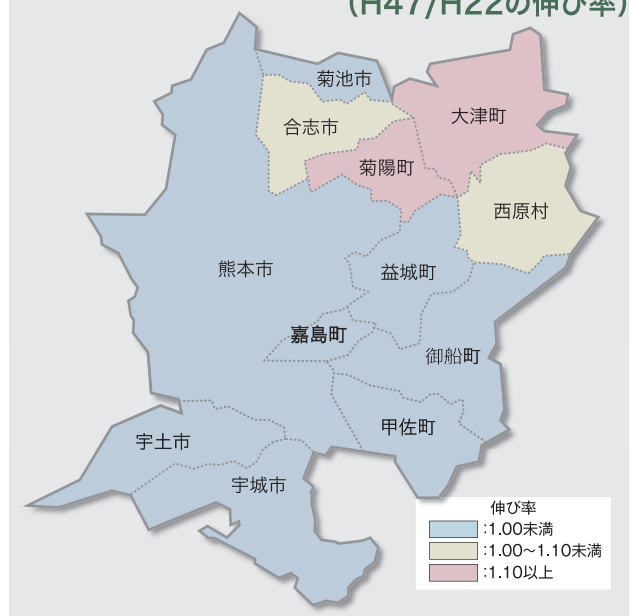
## 都市圏人口の動向

### 都市圏人口の動向

- 熊本都市圏においても全国傾向と同様に人口減少局面に入り、20年後(平成47年)における人口は、現状(平成22年)より約6.7万人少ない、約97万人と予想されます。
- 年齢構成では、生産年齢・年少人口は、現状(平成22年)より約2割減の約15.2万人減少することが見込まれる一方で、65歳以上の高齢者は、約8.5万人増加し、都市圏総人口の約32%を占めるなど、交通動態の変化が予想されます。
- 人口減少が進行する中、地域別の特色として、大規模な従業地などの立地により移住・定住が進む合志市や菊陽町などの都市圏北東部の市町村では、今後も人口が増加する全国的にも特異な地域となると予想されています。

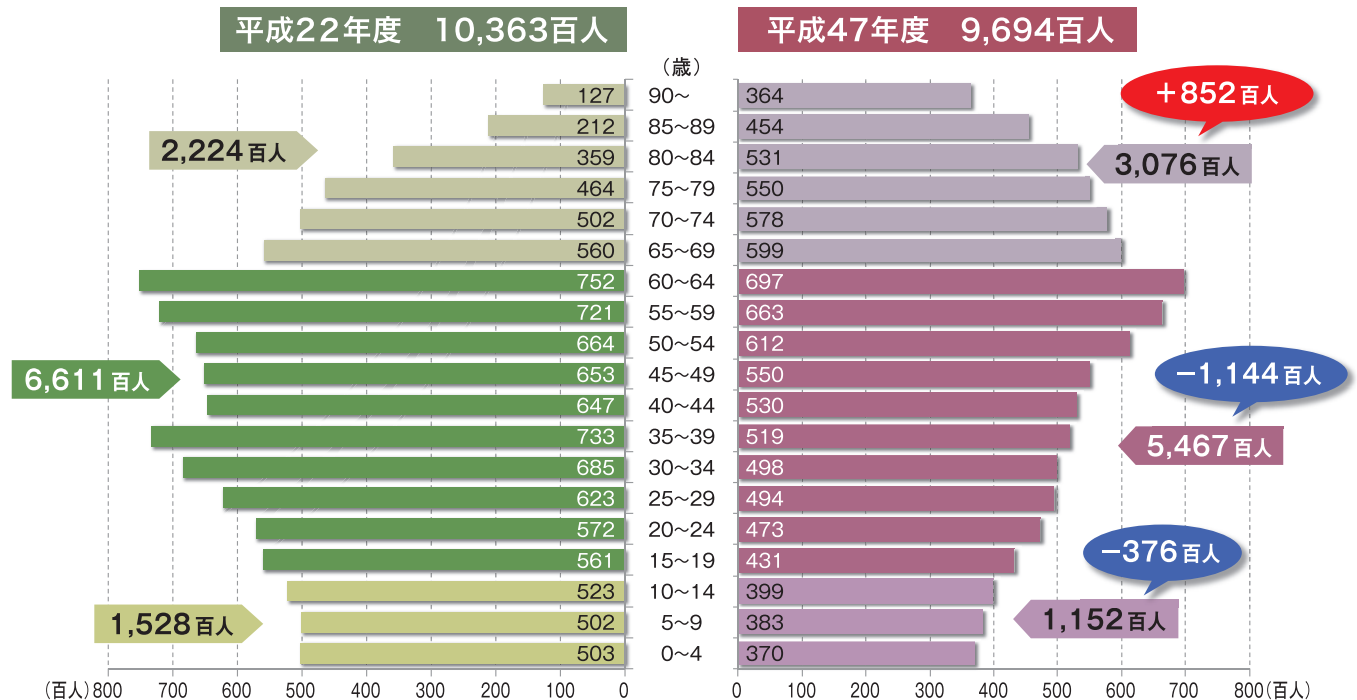
### 市町村別の将来の人口予測

(H47/H22の伸び率)



(出典：国立社会保障・人口問題研究所 [H25.3推計]  
※宇城市・菊池市は対象地域のみを対象に集計)

### 熊本都市圏の人口構成の変化予測



(出典：国立社会保障・人口問題研究所 [H25.3推計]  
※宇城市・菊池市は対象地域のみを対象に集計)

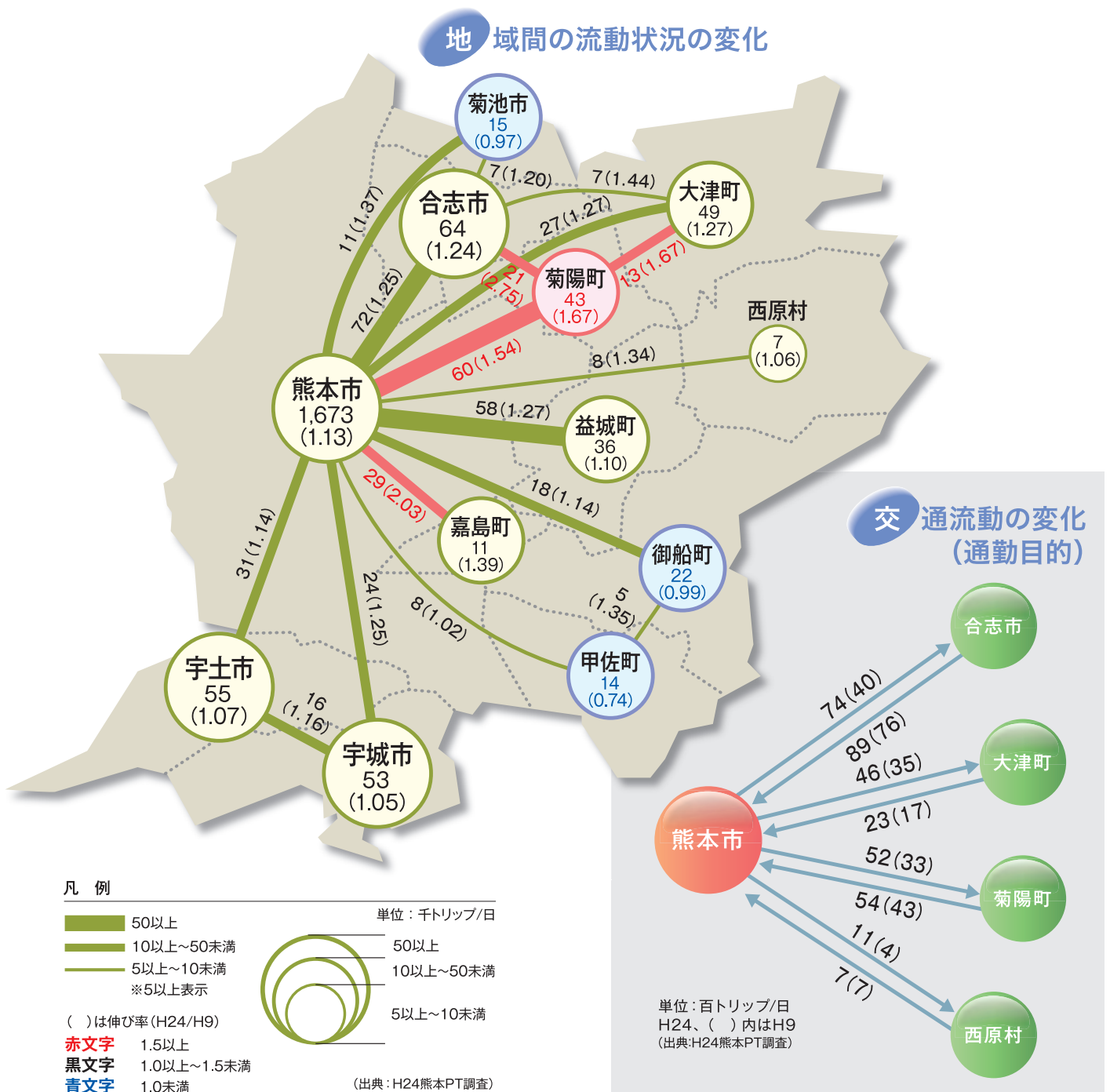
# 熊本市と周辺市町村間の放射・双方向の交通需要が多くなっています。

## 都市圏交通の現状と主な課題

### 地域間の交通流動

- 通勤や通学先の多くが概ね外環状道路の内側にあたる地区(以下、「市街地部」という。)に集中していることから、熊本市と周辺市町村間の放射方向に交通が集中していることが特徴です。
- また、近年は、熊本市から大規模事業者の立地や人口が増加している合志市や菊陽町などへの交通が増加傾向にあり、双方向で多くの交通需要が発生しています。

### 地域間の流動状況の変化

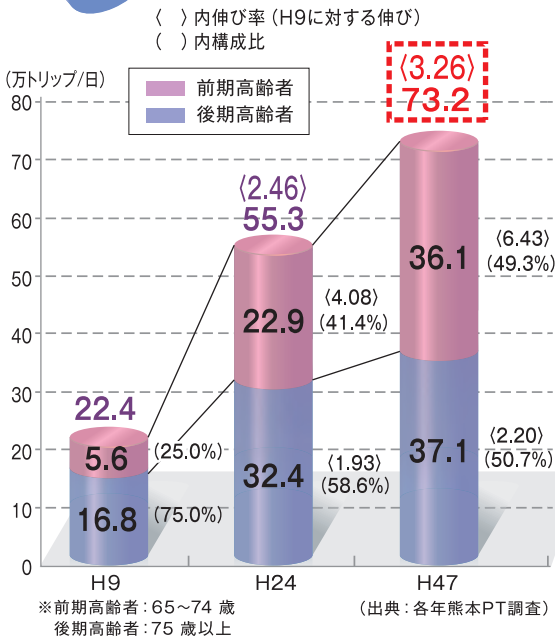


# 高齢者の自動車利用と交通事故が増加しています。

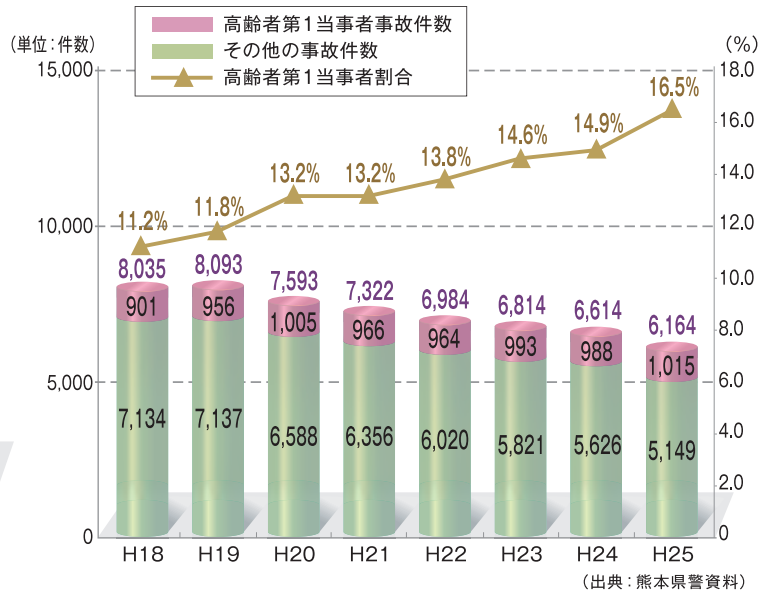
## 増加する高齢者交通

- 高齢者交通は、前回調査時(平成9年)に比べ、平成24年時点では2.46倍に、平成47年時点では、約3.26倍に大幅増加することが予想されます。
- 高齢者の自動車利用率は、前回調査時に比べ15%程度増加しており、また、高齢者が第一当事者(加害者)となる自動車事故が増加傾向にあります。

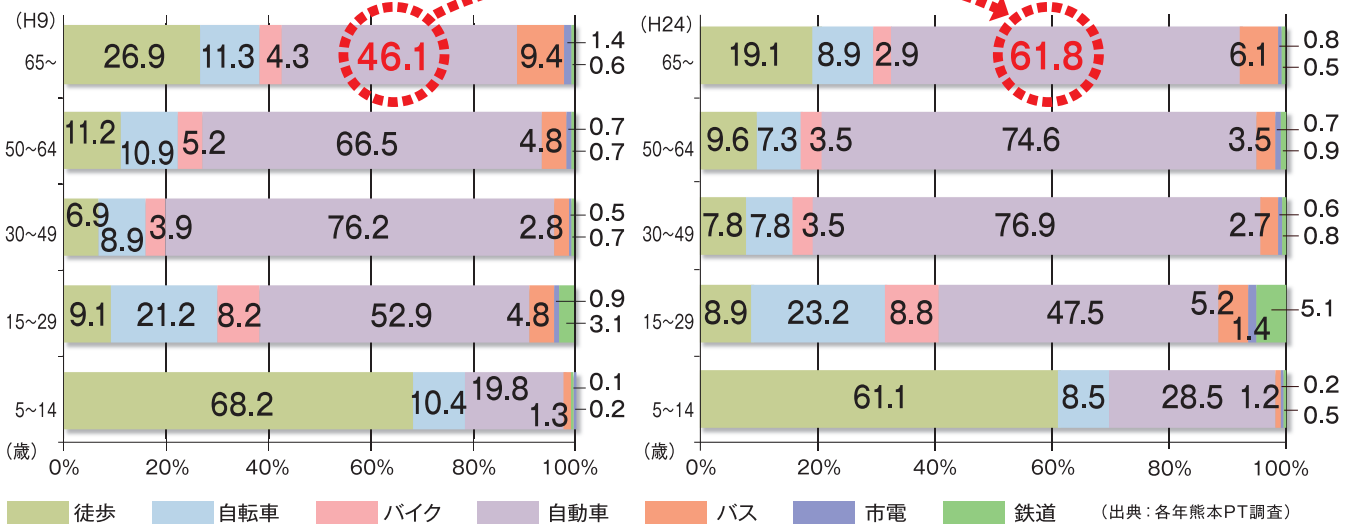
### 高齢者トリップ数の推移



### 高齢者が第一当事者となる事故の割合の推移



### 年齢別にみた交通手段構成の変化



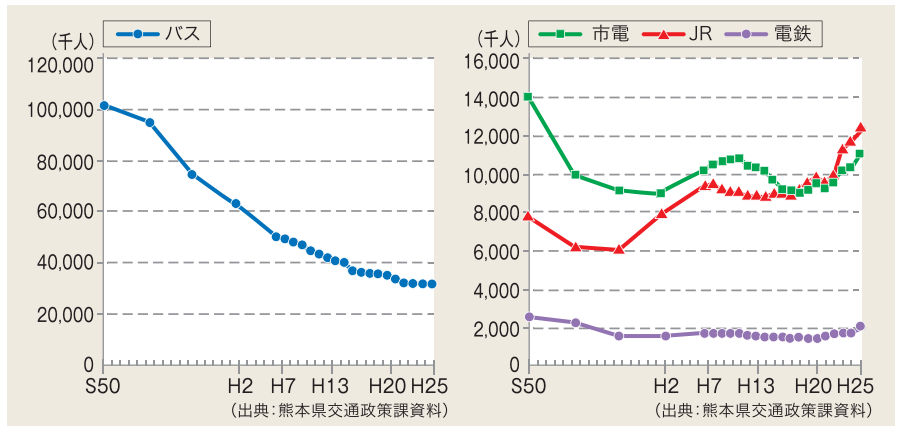


# 公共交通の 持続的な維持が困難になりつつあります。

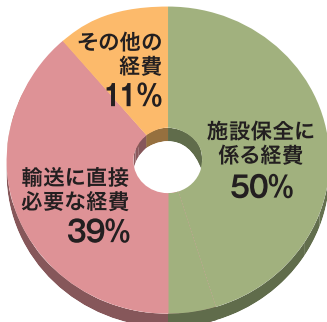
## 公共交通の利用者や各自治体の取り組み状況

- バス利用者は、この30年間で約1/3まで減少しています。
- 特に、市街地部及びその近郊以外では利用者が少なく、事業採算が確保できない路線が増加し、路線維持は極めて困難な状況です。このため、自治体自らがコミュニティ交通を運行する取り組みが増えています。
- 鉄軌道の利用者数は安定していますが、施設保有にかかる経費が運行経費の約5割を占め、交通事業者の経営を圧迫する要因となっています。

### 公共交通機関の利用者数の推移

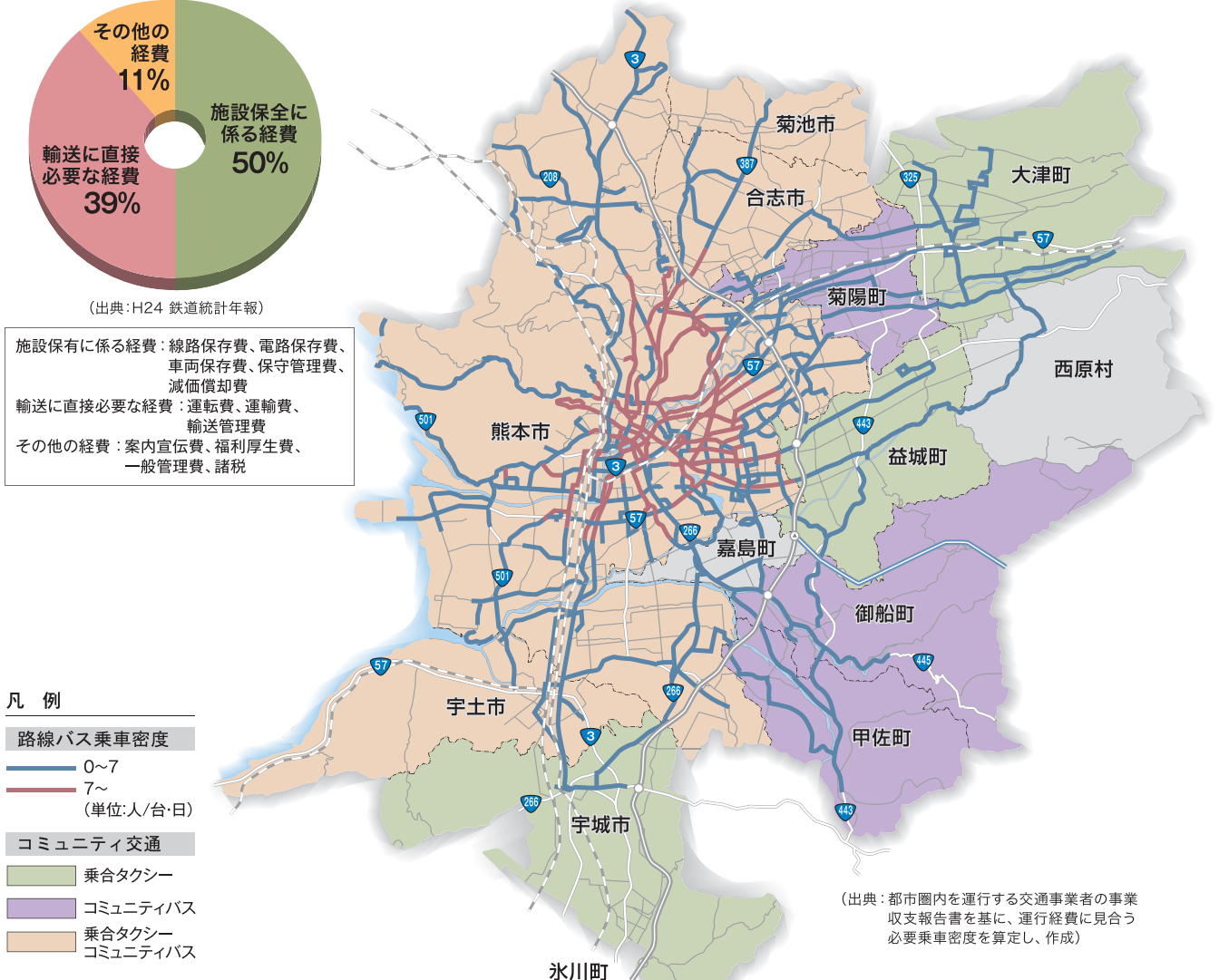


### 鉄道事業のコスト構造



施設保有に係る経費：線路保存費、電路保存費、車両保存費、保守管理費、減価償却費  
 輸送に直接必要な経費：運転費、運輸費、輸送管理費  
 その他の経費：案内宣伝費、福利厚生費、一般管理費、諸税

### 熊本都市圏内のコミュニティ交通導入状況

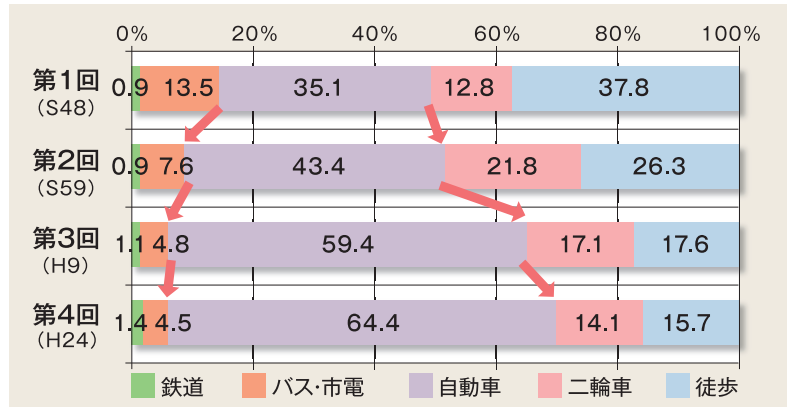


# 市街地部や幹線道路では 朝ピーク時に交通渋滞が恒常化しています。

## 自動車分担率の増加と渋滞の発生

- 自動車の普及や女性の免許保有率の上昇などに伴い、自動車分担率は、昭和48年と比べほぼ倍増し、都市圏交通の約2/3が自動車利用となっています。
- この間、道路整備は着実に進んでいるものの、市街地部や放射環状道路上においては、朝のピーク時間帯などに交通渋滞が恒常化しています。

## 交通手段分担の変化



(出典：各年熊本PT調査)

## 現況の朝ピーク時低速度区間

[拡大図]



凡例

- 一般道 10km/h未満
- 一般道 10~20km/h未満

(出典：旅行速度調査を基に作成)

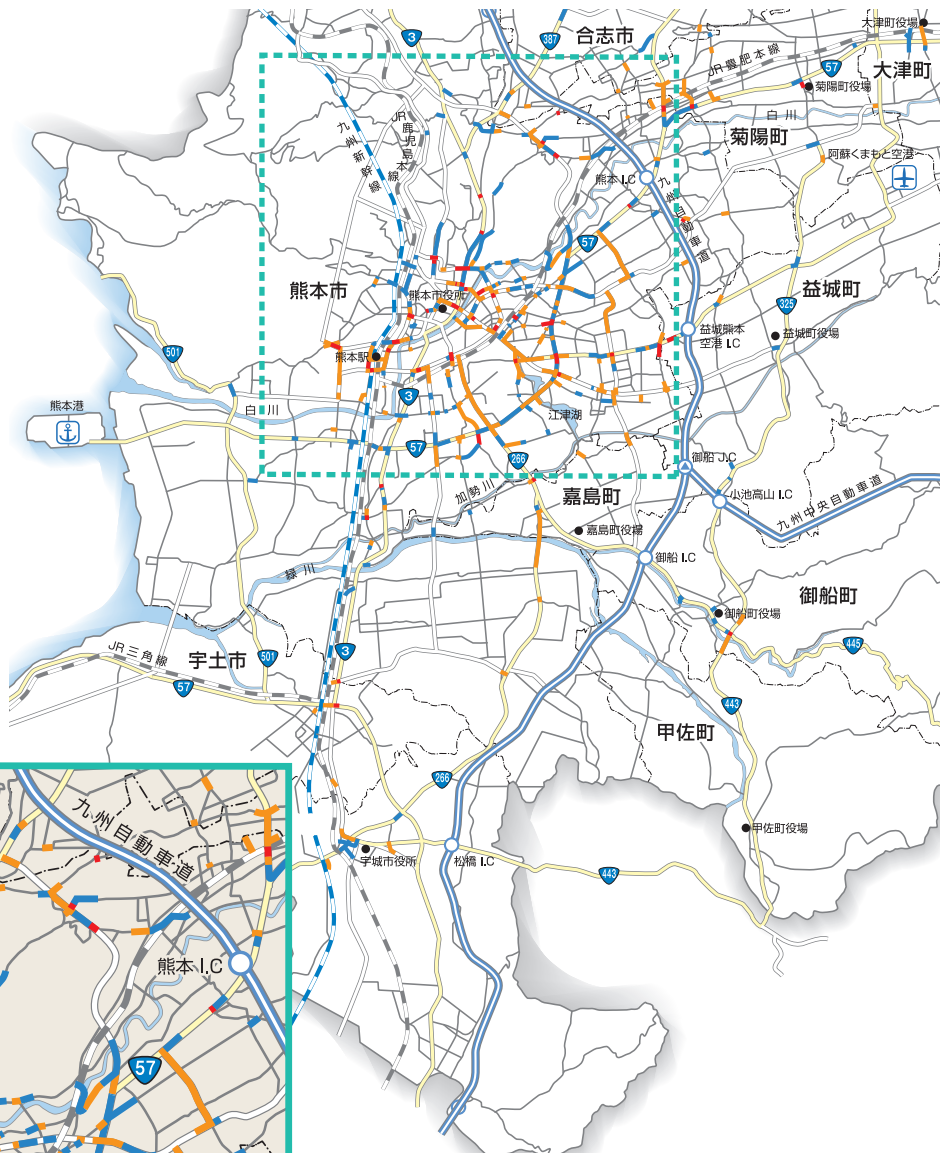


# 交通渋滞が残存することが予想されます。

## 自動車交通の将来見通し(新規施策を講じない場合)

○人口減少に伴い自動車交通量は頭打ちになるものの、通勤通学に伴う放射方向の交通需要は依然として多いことが予測されます。このため、現在事業中の道路整備の完了で一定程度の交通混雑の減少は期待されるものの、市街地部や主要な放射環状道路路上では混雑解消には至らないことが予想されます。

### 事業中の道路の完成後に残る朝ピーク時低速度区間の将来予測



[拡大図]



**凡例**

- 一般道 10km/h未満
- 一般道 10~20km/h未満
- 一般道 解消区間

(出典：旅行速度調査及び将来H47OD表・事業化ネット推計値(※) / 現況再現値を基に作成)

※事業化ネット：

現況道路網に、事業中路線や熊本市圏交通アクションプログラム及び道路整備プログラムなどに位置付けられている計画路線、並びに、計画段階評価実施中路線より構成された道路網のこと。